



▼1年生がインターンシップ農業 体験（7月22日）

地域に根ざした特色ある取り組みの一環として、本町の基幹産業である農業体験を実施しました。町のスクールバスで、農業担い手育成センター（旧富野小学校）に移動し、ホウレン草・イチゴ・ブロッコリーの収穫を体験しました。農業担い手育成センターのみなさんにお世話になりました。

▼夏休み明け全校集会（8月18日）

全校集会では、清水美由紀校長の講話をはじめ、教務・環境部長の黒田さとみ教諭、進路指導主事の石岡紀史教諭からお話がありました。3人は、生徒一人ひとり



農業体験



シェイクアウト訓練

が、どのような点に留意して夏季休業明けの前後後半の学校生活を送らなければならないかを説明しました。その後、陸上同好会の団体選考会や情報処理技能検定などの表彰伝達を行いました。充実した高校生活となるよう期待しています。

▼本校も北海道シエイクアウトに 参加（9月8日）

北海道では、毎年、一般参加型の一斉防災訓練「北海道シエイクアウト」を実施しており、本校も欠かさず参加しています。

訓練は、大規模な地震が発生し、北海道全域で大きな揺れを感じたという想定。校内放送で①DROP（まず低く）②COVER（頭を守り）③EOP（ON（動かない）を指示すると、全校生徒は迅速に行動に移しました。防災リテラシーの向上を目指して、取り組みを継続していきます。

高校生と一緒に

よりみち通信



「よりみち学舎」は、厚真高校と地域が連携しながら放課後を利用して生徒が自ら目標を発見し、挑戦する公営塾です。

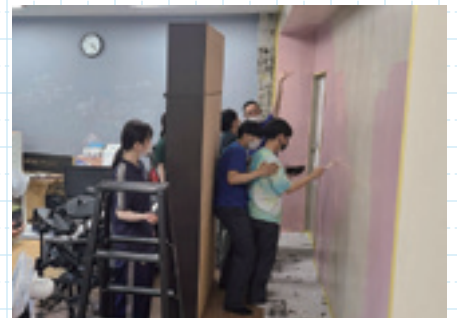
公営塾「よりみち学舎」には、さまざまな人が訪れます。中でも、厚真町教育委員会と連携している北海道教育大学の学生は、厚真町長期滞在プログラムに参加して胆振東部地震以降、毎年、町内で活動を続けています。しばしば公営塾に顔を出してくれるようになりました。学生と厚高生の交流も始まり、生徒にうれしい変化が出てきました。

厚高生の対応はさまざまで、初対面でもすぐに馴染む生徒もいれば遠慮がちな生徒もいます。触れ合う機会が増えることで、距離が縮まってきました。バスケットボールやフィンランドの伝統ゲーム・モルックを通じて意思疎通がスムーズになり、厚高生の瞳は輝きを増しています。大学生たちも「また来てもいいですか?」とよりみち学舎に愛着を抱き、友好的な関係を築いています。

最近、大学生と厚高生が一緒によりみち学舎の教室の壁を薄いピンク色に塗り替えました。好きなアーティストの話題で盛り上がり、高校生生活について相談する生徒もいて、公営塾のスタッフには見せたことのない新たな一面もみられ、人との出会いが、厚高生の世界を広げていると実感しました。

町民をはじめ、町外の方と厚高生の触れ合いの場も提供できたら…。厚高生の視野を広げる空間を作ります。

教育魅力化支援員 山中 卓也



壁の塗り替え